

○辻泰弘君 民主党・新緑風会、辻泰弘でございます。

まず、山田参考人に御意見をお伺いしたいと思います。

まず第一問は、小泉改革についてどう評価されるかというのを総括的にお伺いしたいのが第一点。それから、不良債権とデフレということが優先順位という議論がございますが、その因果関係といいますか、そのことについて御見解をお伺いしたい。

中村参考人につきましては、ワークシェアリングが検討されているわけですが、今の検討の現状と、また政策、現時点で結構ですが、政策としてどういうサポートができるのか、そのことについて。それと、セーフティネットの具体策。また、労働移動における不利にならない社会システムづくりというのがございますが、この点についての具体的なことがあればお聞かせいただきたい。中村さんについては三点でございます。

それから、松井参考人につきましては、ワークシェアリングについて日経連会長が財政的な措置、すなわち助成金的なものは不要であるというふうな御見解を出されたと思いますが、その点についてのお考えをお聞きしたいということと、説明資料もございますけれども、終身雇用、それから外国人労働、このことについての日経連としてのお考えをお伺いしたいと思います。

○参考人（山田久君） 御質問二点に関して。

まず最初、小泉改革に対する評価でございますけれども、今の日本の経済の置かれている問題、言わば失われた十年という形でのいろいろな形の構造調整、必要な改革というのか、というのが事実上この過去十年にわたって先送りにされてきたことはやはり認めざるを得ないと思います。そういうものを進めていくという基本方針に関しては全く評価されるべきだと思います。

ただ、その進め方に関して、ある部分、今の議論は後ろ向きの議論、当然不良債権、あるいは財政再建ということは当然必要でございますけれども、その一方で新しい日本の全体像、特に今不足しているのは、恐らく国民の非常に大きな不安、雇用不安に代表されるそういう部分というのは、国民がどういう形で、環境が変わっていった中で、自分たちの不安を解消していった前向きに生活していくかというところが見えてないところに非常に一番大きな問題があると。

それは、実は産業の問題はそうなんだけれども、産業だけじゃなくて我々の生活の在り方、あるいはもっと言いますと家族の在り方みたいなものも含めた見直しというのが実は必要になってくるわけですが、その辺の、そうすると例えば社会保障の在り方であるとか、私が先ほどの資料で最後に説明した、最後の生活保障の見直しという全般の話にかかわるところなんです、その辺の議論がまだ十分されてないなど。逆に国民のそういう前向きに生活していくというところに対して、その不安を解消するにはこういうところの議論をもっとやらないとだめなんだなど。

それから、当然新しい産業をどう興していくのか。これが議論、抽象論としてはあるわけですが、それを具体的にどういうふうにやっていくのかという議論はまだこれからやらないとだめだという、その産業のところと、新しい産業を興すところと生活保障をどうするかというところがやっぱり重要なんだと思います。

それから、デフレと不良債権の因果関係に関してですけれども、これは大枠言ってしまうと、デフレというのが一番大きな日本の今抱えている象徴的な問題だと思います。当然、不良債権、過去に起こってしまった問題としてこれは当然処理していかないとだめなわけですが、その結果としてはいろいろな問題が生じているのは事実なんでしょうけれども、ただ不良債権自体も、スピードの問題はありますけれども、徐々に進んできているのは事実でありまして、そうい

う面で、もちろんこれスピードアップする必要があるわけですがけれども、デフレがやっぱり根底の問題としてあると。

ですから、ただデフレに対して、じゃ我々はどういう形で対応できるのか。もちろん例の今金融政策でもって一種の調整インフレに近い形で解決しようという議論もあるわけですがけれども、私自身としては、今のデフレというのは基本的に、先ほど冒頭の中で発言させていただきましたように、アジア諸国のやっぱり工業化、そういう中で日本の高コスト体質というのが、やはり基本的にそういう問題がある。

ですから、ある部分、名目の成長率みたいなものがなかなかプラスになってない、こないというのはこれ仕方がないというのか、そういうところを前提として、要はいかにスムーズに新しい産業を興していく、あるいは低コストで生活できるような環境を作っていく、それは正に今の議論だと思いますけれども。それから、労働移動をどうやって円滑に進めていく、そのところの議論をすべきなんじゃないのかなと。なかなか現実問題としては金融政策でもってインフレを起こすというのは難しいんじゃないのかなというふうに考えております。

ちょっと長くなりました。申し訳ございません。